# かめを助けるという事

L工校　四年　二組
クラーク　海人

ぼくがみなさんに、「かめを助けました」。と言。たず、みなさんはかめの命が助かったと思いませんか。ぼくもそう思うかもしれません。ぼくはこの夏、助けるという言葉の意味をよく考えました。

八月の中じゅん、お母さんとお父さんがジョギングしている間、家の近くの道路のそばで、かめを見つけました。かめの目は赤くてよごれていました。拾おうとしたお父さんですが、このかめは病気なのかなと

めが、たそうです。もど、たお父さんとお母さんが、ぼくたちにこの話を教えてくれました。その後、ほごしたらいいのか、放っておいたらいいのか相談した後、とりあえずかめをほごすることにしました。車でその場所にもどった時、そこにかめはまだいました。小さな入れ物に入れてボトルの水をかけました。それは野生のニシキガメでした。かめは頭をかくしたまま動きまわりました。

何をしたらいいのか分からなかったので、野生動物の出ん門家を調べてれんらくすることになりました。せん門家に、写真をアイフォンで送ったら、すぐに来てくださいと言われたから、

ました。家から三十分の場所にかめをつれて行きました。せん門家のオフィスに着いたら、かめを引きわたして、ケース番号をもらいました。オフィスの周りに大きな池があったので、そこまでさんぽに行きました。池の中にはかめがいっぱいたので、かめが元気になったら友達を作るのかな、とうれしくなりました。

それから、あまりかめのことを考えていませんでした。かめを引きわたした一週間後、お母さんがイーメールを受け取りました。このイーメールに信じられないことが書いてありました。そこには、かめを薬で死なせてあげなければいけならなかったと

と書いてありました。そのことと安楽死といいます。ぼくはこれを聞いてすごくびっくりしました。それは、かめは両目をひどくけがしていて、なにも見えていなかったためーつの目を手じゃーつで取ってみた後、のこった目を治す方法も無く、どうすることもできなかったからです。目が見えないまま放っておくと、えものがとれなくて、死んでしまいます。ぼくは、最近はうそだと思いました。だけど、これは本当のことです。何回かイーメールを読んでいたら、急に悲しい気持ちになってしまいました。かめが死んだのだから、助けたこと。ならないのかな。それとも助

けようとしたから助けたことになるのかな。ぼくはどちらなのかをよく考えました。

ぼくは助けたことになったと思います。どうしてかと言うと、そのかめを助けようとしないまま放っておいたら、おなかがへって、いたいまま死ぬからです。ぼくは家族といい決だんをしたと思います。葉でいたくなく、しずかできれいな部屋で安らかに天国に行けたかめは助かったと思います。もしかしたら、かめはぼくたちを空から見ているのでしょうか。

# リスとのたたかい

W校　三年三組　板倉　あけみ

今年の夏、私はトマトを育てました。

トマトの苗を母が買ってきてくれ、家族で植木鉢やひりょうを小さいセンターへ買いに行きました。土は、家のうらの土地の土を使いました。そして、トマトの苗を植えました。

私は、ようち園の時にトマトを育てたことがあります。とても楽しくておいしかった思い出があるので、また自分の作ったトマトを食べられると思うと、うれしくなりました。

毎日わすれずに水をやり、ひりょうをあげ、世話をしました。しばら

くすると花のつぼみができました。

私は、ようち園で育てたトマトを思い出しながら、

「花が咲いたら実がなって、赤くなったら食べられるよ」。

と、妹に教えてあげました。花が咲くと、みつばちが花の周りに集まって来ました。私はこわくて、

「はちがいる。さされるかもよ」。

と、母に言いました。すると母は、

「はちは、受粉してくれているんだよ。はちがあやって受粉してくれると、トマトの花が実になるんだよ」。

と教えてくれました。私は、はちのことが少しだけかわいく思えるようになりました。

になりました。

世話をしていると、小さな苗が毎日少しずつ大きくなっていきました。私の手の大きさくらいだった苗がうでほどに大きくなり、支柱がいるようになりました。支柱は、買わずにサクソンウッズの森にまっすぐな木のえだをとりに行って、それを使いました。トマトのえだとひろって来たえだをひもでむすびつけ、支柱を立てました。支柱をつけてしばらくするとトマトはとても大きくなりました。そして、おどろくほど多くの実をつけました。けれども、ちっとも赤くなりません。ようち園ではこんな事はなかったので、私はふし

ぎに思いました。

ある日妹が、

「あっ、トマト」。

とさけびました。私と母が外を見ると、なんとリスがまだ緑色のトマトを食べていたのです。私は、リスが好きでした。けれども、育てているトマトはあげられません。家族で相談し、あみをはることにしました。

またホームセンターへ行き、プラスチックのあみを買いました。家へ帰ると、父はさっそくトマトの周りにあみをはってくれました。

そして、しばらく見ていると、また、リスが来ました。その時私はリスのことをにくらしく思いました。

私たちは、リスからトマトをまもるために調べると、カイエンペッパーペーストがよいことが分かりました。そこで、あみの周りにぬりました。それでもリスは、あみをくいちぎり、トマトを食べてしまうのです。私はかわいいと思っていたりスがいやなそんざいに思えてきて、毎日リスの通り道にカイエンペッパーをまき続けました。すると、ついに赤いトマトをしゅうかく出来るようになったのです。少しかたかったけれども、とてもあまく、おいしかったです。

私は、さい初はまけてばかりだったりスとのたたかいにかって、トマトを食べられて、うれしかったです。

# 一年のアメリカ生活をふりかえって

W校　三年一組
市川まや

わたしは、去年の八月にお父さんのてんきんでアメリカに来ました。

アメリカに来る前は、日本の友だちとはなれるのがかなしくて、どん国なんだろう友だちできるかなとふあんで心ぼそかったです。アメリカに来てはじめのころには、公園で遊ぶのもドキドキしたのを今でもよくおぼえています。

少しアメリカになれてきたころ、げん地校が始まりました。たんにんの先生がえい語でやさしく話しかけて

16×16

くれたのですが、わたしはとてもきんちょうして、目も合わせられなかったのをきのうのことの様に思い出します。さいしょは、まわりの子のやっていることを見て、一生けん命まねをしていました。分からない事があるとまわりの日本人の友だちが助けてくれました。少しずつげん地校の生活にもなれていきましたが、日本の友だちに会いたいなと思うこともありました。

日本とアメリカの学校で一番ちがうと思ったことは、日本は答えを大切にしますが、アメリカではなぜそう思ったか考えを大切にします。わたしはアメリカに来て、自分の考えを

16×16

持つ大切さを学びました。自分の意見を発表し、他の人の意見を聞く事でこんな考え方もあるのかと勉強になることがたくさんあります。

今年はアメリカに来て二年目です。去年は友だちもいなくてこわかったけど、今年はたくさんの友だちがいます。そしてえい語も去年より分かります。もう少しもこわくはありません。

わたしは去年の一年を通して、かいだんを一だん上った気がします。これからもむずかしい事や、くじけそうな事があると思いますが、あきらめず、一歩ずつ前に進んでいきたいと思います。いやな事があったり、

16×16

つらい時に家族や先生、友だちが周りにいてくれたので、がんばる事ができたのだと思います。日本とアメリカのよい所をたくさん学んで、日本に帰った時に、みんなにその事をつたえたいと思います。

16×16

# のこさず食べよう

L工校　三年一組
酒巻　祐

ぼくは、アメリカのスクールランチについて、かなしく思っていることがあります。それは、食べ物をムダにしていることです。一日何百キロもの食べ物をすてているのではないかと思います。ランチの後、外に遊びに行く時に、すごいりょうのごみがくろに入った食べ物がすてられています。なぜ、みんながたんさんの食べ物をすてるのが考えてみました。

一つ目は、スクールランチは、あまりおいしくないということです。

ぼくも、何度か食べたことがありますが、正直言ってまずいです。だから、ぼくは毎日お母さんにおべん当を作ってもらうことにしました。スクールランチは、味やえいようのバランスがわるいので、お金をはらってでも、おいしくしたらいいのではないかと思います。

二つ目は考え方です。アメリカ人は、ぼくたち日本人とちがって、食べ物をすてるのはいいと思っている人が多いのではないかと思います。たいして食べないランチをもらって、食べなかった食べ物で遊んで、けっきょくすてている友だちを何人も知っています。ぼくは、何度も「食べ

物で遊ばないでくれませんか。」と言っているのに聞いてくれません。そのたびにぼくは、とてもかなしくなります。

だれも手をつけなかった食べ物もすてられてしまいます。こういう食べ物は、ホームレスセンターにきふすればいいのではないのかと思います。

日本のきゅう食は、アメリカの何千倍もおいしいです。ぼくは、いつもおかわりをして三人分ぐらい食べていました。アメリカのランチもそれぐらいおいしければいいのではないかと思います。

宗教上の理由で食べられる物がそ

16×16

れぞれちがうのでむずかしいと思いますが、食べ物がすてられることが少なくなるシステムや活動を作って、みんなの考え方がかわってほしいです。

16×16

# どこかいきのバス

W校　三年三組

今福　志門

ぼくは、夏休みにどこかいきのバスという本を読みました。お母さんにかたづけのことでおこられたので、もつれて行ってくれるふしぎなバスにのってぼうけんするお話でした。

ぼくは、よくお母さんに

かたづけのことでおこられます。それと、ぼくが三才の時プールから家まで一人でかってに帰ってしまったことがあります。この子はぼくとにていてるから、読んでいておもしろかったです。

ぼくは知っている場しょには一人で行けるけれど、知らないところにはこわくて行けないから、この子は一人で家出するなんて、こ

わいもの知らずでゆう気があると思いました。

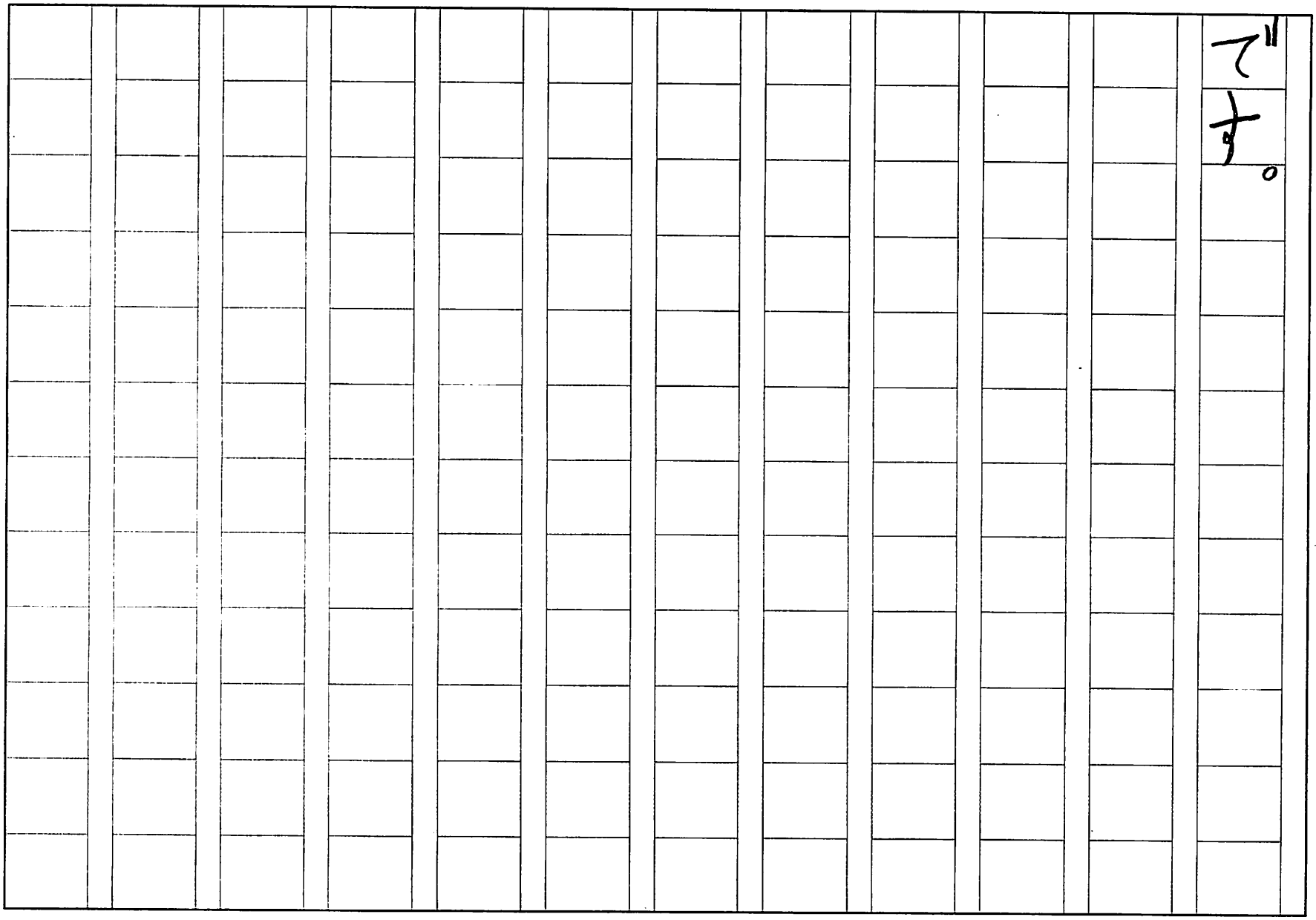
そして、ぼくがおどろいたのは、この子がそのバスででここにでも行けたことです。ぼくは今、アメリカにすんでいて日本の友だちになかなか会えません。ひこうきで十三時間もかかりますが、だからぼくがその子だったらそのバスをすぐスピードが出るひこうき

にへんしんさせて日本に帰って友だちとあそびたいです。

そのあと友だちをひきつれてきて、つぎはヘリコプターになってもらい、自ゆうの女がみを空の上から見てみたいです。

何にでもへんしんできる、どこにでも行けるバスは今はまだないけれど、いつかぼくがはつめいしてみたい

12×12




12×12

# はじめてはがぬけた

W校一年三くみ
まきみのり

わたしはずっと、はやくはがぬけてほしいな、とおもっていました。わたしがいっているげんち校では、学校ではがぬけたらはをいれる小さいケースをもらえます。そのケースは、小さな宝ばこになっています。おともいろもえらべます。おと

だちがその宝ばこをもらっているのを見て、いいなあとおもっていました。

なつやすみ、日本にいったとき、ついにわたしのはがぐらぐらしました。よる、おかあさんにはをみがいてもらっていたとき、

「はがぐらぐらしているよ。」

とおかあさんがいいました。はじめてのことだったのでわたしはうれしかったです。

それからどんどんぐらぐらになっていきましたが、しばらくぬけませんでした。

九月一日、やっとはがぬけました。ねるまえ、なにもたべていないのに、口の中になにかかたいものがあある、とおもったら、はでした。わたしはびっくりしましたが、やっとぬけたのでうれしかったです。しかし、おうちでぬけたので宝

ばこはもらえなくてざんねんでした。

いままたちがうはがぐらぐらしています。つぎは学校にいるときにぬけてほしいなとおもっています。